

課題名	1 畜産におけるコンピュータの利用	分類	②
	酪農総合診断システムの利用状況		
試験研究年次	63～2年(完了)		
<p>I 目的</p> <p>酪農総合診断システム「酪農手帳」の利用状況について調査・検討し、コンピュータ利用による家畜の科学的・合理的飼養管理、経営管理技術の確立に役立つ。</p>			
<p>II 方法</p> <p>1 調査方法 現地聞き取り及びアンケート調査</p> <p>2 調査農家 モデル農家6戸を5地区から選定</p> <p>3 調査項目 農家経営概況(労働力、経営規模他) 利用状況(使用時間、使用者、利用についての意見他) 繁殖状況(個体管理状況、各種診断項目) 生産状況(乳量、乳質他)</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>総合診断プログラムのうち個体管理、飼料給与診断・設計の2プログラムがよく利用されており、乳量の増加、疾病の減少、繁殖成績の改善、後継者教育に有効などの点で利用効果が期待できる。</p> <p>1 県内の利用状況は、30代及び40代の経営者を中心に、酪農専業あるいは酪農主体の複合経営で利用されており、後継者に自家経営の内容を理解させる手段として活用している例もあった。</p> <p>2 プログラムの中で最も利用されているのは、個体管理と飼料給与診断プログラムであり、経営管理プログラムは、経営改善に熱心な農家でのみ利用されていた。</p> <p>3 利用上の問題点として、①コンピュータを自家所有していない、②農家のコンピュータの利用技術が未熟、③総合的なデータ不足などが挙げられる。</p> <p>4 プログラムの総合的な利用性は、ほぼ普通程度と判断されたが、その後飼料給与診断・設計及び個体管理プログラムの改善を行ったことにより利用性の向上が認められた。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 利用者の年齢構成

	20代	30代	40代	
割合	15.4	69.2	15.4	%

第2表 利用の感想

事項	良、易、安	普通	悪、難、高	
利用感想	33.3	50.0	16.7	%
使用難易	0	66.7	33.3	
購入金額	50.0	33.3	16.7	

第3表 プログラム利用農家率 (戸/戸) (2年)

	個体管理	飼料給与	経営管理	粗飼料生産
利用農家率	6/6	5/6	2/6	2/6

第4表 搾乳繁殖成績の推移

農家別	年別	規模	乳量	乳脂率	無脂固形	分娩間隔	疾病件数	空胎日数	初産月齢	授精回数
	年	頭	kg	%	%	日	件	日	月	回
A家	1	[搾40 育40]	7042	3.85	8.62	394	-	124	26.5	2.0
	2		7154	3.95	8.7	394	11	108	28.8	1.5
B家	63	[搾27 育25]	7300	3.60	8.6	410	5	120	25.5	1.7
	1		7600	3.64	8.6	400	1	110	25.0	1.5

注) 上段は調査開始前、下段は調査終了時点。

V 成果の評価と取扱上の留意点
農家での経営改善に活用できる。

VI 今後の研究上の問題点
1 総合から単一プログラムへの変更
2 実用性向上のためのプログラム改善

VII 資料名
1 福岡県農業総合試験場研究報告C(畜産)第9号
2 1~2年度福岡県農業総合試験場畜産研究所 畜産関係試験成績書